

(別紙様式 小中学校用)

平成21年度指定 新しい職を活用した研究モデル校 研究報告書

学 校 名 高知市立横内小学校

学校長名 横 田 妙 子



1 研究テーマ

地域協働で、学力向上を

- 旭中校区3校合同研究テーマ
「9年間の学びづくり 一人・もの・ことへのかかわりをどう深めるか」
- 旭中校区3校共通課題
 - i コミュニケーション能力の育成 ii 書く力の向上 iii 家庭学習の定着
- 本校テーマ
『支え合う心、伝えあう力を育てる「子ども同士がかかわり合う学びづくり」』

2 研究内容

- ◎ 学校組織における主任層(ミドルリーダー層)の役割が活かされる仕組み
- ◎ 教育課題に対して、学校全体で取り組む学校

本校の目指す学校の姿

- (1) 組織的に「学力向上、生きる力を育む」に向けて取り組む学校
- (2) 小中、家庭・地域などとの連携が図られている学校
- (3) 新教育課程の完全実施に向けて年次的な成果を積み上げていく学校
- (4) ミドル・アップ・ダウンマネジメントを活用した学校組織の活性化を図っている学校
- (5) 複雑に絡み合った課題に横断的かつ弾力的な対応をすることのできる学校

3 新しい職の配置による組織体制

組織の改善点や現在の組織体制等

22年度組織の改善点

- 新しい職(主幹教諭)を生かすチーム制の導入…研究推進委員会(研究主任・教務主任、チーム1～7の各CAP)を中心に、学力向上、人間関係づくり、仲間づくりに向けて教員の授業力と学校の組織力を高める。その統括を主幹教諭が行う。
- 小中連携については、3校学力調査連絡会(構成：3校校長、教頭、主幹教諭、研究主任)を中心に推進する。

4 新しい職の活用状況

- 主幹教諭の担当職務、校内での位置づけ及び活用状況等
 - (1) 研究推進委員会の企画・運営
 - ① 学力向上策
 - ・放課後加力指導 ・夏休み加力指導 ・SC, 学校ボランティア, 学習チューター・スクールチューターの活用(中学年を重点学年として基礎学力定着を図る)
 - ② 長期欠席・不登校対応
 - ・養護教諭, 児童支援担当とともに毎朝の全児童の登校確認, 個別支援
 - ③ 9年間の学びづくり
 - ・小中連携教育推進
 - 夏季3校合同研修(教科, 領域・課題別)分科会 3校担当研修(教科, 学年別分科会)
 - ・校内授業研究推進

(2) 特別支援教育校内委員会の運営

① 特別支援教育コーディネーター

・養護教諭とともに教育相談の充実を図る。

② 不登校対策委員会

・養護教諭とともにＱＵの活用と教育相談の充実を図る

(3) その他

① 教職員の資質・指導力の向上

・校内研修（実践交流会等），教育実習生の指導。

② 児童の教育活動指導

・家庭科，総合的な学習等 ・地域の人材活用の支援 ・教材開発

5 具体的な取組

- (1) 学力・生徒指導等の教育課題を解決するために、学校はもちろん、旭中学校区3校のすべての教職員が方向を合わせ、地域が協働していく動きを創り出していくため、小中連携のコーディネーターとして活用している。
- (2) P D C Aサイクルを生かして教育活動や学校運営の改善をしていくために教職員一人一人のベクトルを合わせ、自己評価を充実させるために、自己目標シート・教科・学級経営案等との整合性を図るための校内研修を実施し、学年・個人とコミュニケーションを密にとり、進捗状況を確認しながらモチベーションを保つ働きかけをしている。
- (3) マネジメントチームの一員として、学校の経営意思・ビジョンを研究推進委員会で各主任に伝達し、分掌ごとの実行計画づくりを促進することに活用している。そして、学校として体系だった具体策が効果的に展開されるように活用している。
- (4) 人材育成の視点から、主幹教諭を中心にチームマネジメントを展開し、各チーム、学年、学級担任の支援体制をつくっている。
- (5) 特別な教育的支援を要する子どもに教員経験者による教室での個別支援や学力保障を行い、落ち着いて学習に取り組むための体制づくりを行っている。（スクールカウンセラー・学校ボランティア・スクールチューター活用）また、全校的に放課後加力指導（火曜日など）を行い、教職員と学習チューターとの連絡・調整をしている。

6 研究の成果

- (1) 主幹教諭や主任が効果的に機能するようにチーム制を取り入れ、よりチームマネジメントの動きがとりやすくなった。
- (2) 学校の内部統括を主幹教諭がすることで、教頭が学校内部の組織を俯瞰してみることができ、外部対応にエネルギーを費やせるようになり、学校内外のバランスがとりやすくなった。
- (3) 主幹教諭と研究主任，教務主任の役割が明確になったことで，学校全体を見回すことができるようになった。
- (4) 研究主任と教務主任との役割分担の中で互いの持ち味を活かしつつ，重点をつけることができるようになってきた。
- (5) 研究主任と教務主任の統括者として方策を考えるようになった。
- (6) 特別支援コーディネーターを養護教諭と複数制で担当したことにより，特別な教育的支援を必要とする児童への理解が深まった。
- (7) 旭中学校区3校のコーディネーターとして3校合同研修，夏季合同研修のつながりを考慮し，小中の教職員が意見交流する場を多く設定したことで，小中連携することの意味やよさに気づき，今後こんなことをしてみたいという意見が出てくるようになってきた。

7 課題の分析と考察

本校の目指す学校の姿についての分析と考察

- (1) 組織的に「学力向上、生きる力を育む」に向けて取り組む学校
- (2) 小中、家庭・地域などとの連携が図られている学校

学力面ではA,B 学力とも伸びを見せ、21 年度は国語 B が、22 年度は算数 B が全国平均を大きく上回り、一定成果が上がっている。(別紙資料参照)

昨年度の学力状況調査や生活実態調査の結果から、本校の課題は①基本的生活習慣の確立、②自己学習時間・計画性、③家族との食事や会話④手伝い ⑤主体性の確立⑥達成感・挑戦意欲・自己肯定感をもたせることであった。今年度は、本校の課題を共通認識し、組織的に取り組んだ結果、①④⑥は改善がみられた。しかし、②③⑤はまだまだ改善しているとはいえない。生活面の取り組みとして、次年度はあいさつ運動に3校だけでなく、地域ぐるみで取り組む方向である。さらに課題となっている、人間関係づくりや学級づくり・仲間づくりに関しては、「学びづくりは人間関係づくり」と3校で確認しあい、児童・生徒同士のかかわり合いを深めるよう、小小連携や小中TT授業や交流を推進していく必要がある。

本校がめざす「学び」は、知識・技能だけでなく、児童の生活、思考、行動の豊かさを育む教育活動の総体である。課題解決のためには、学校だけでなく、家庭・地域と協働していく動きをさらに組織的に作り出し、児童の育ちが実感できる取り組みを続けていく必要がある。

- (3) 新教育課程の完全実施に向けて年次的な成果を積み上げていく学校

23 年度の新教育課程の完全実施に向けて、本校では各学年で新教科書を見ながら教科経営案等を見直し、授業改善の必要を認識したところである。「9 年間の学びづくり」については、高知市教育研究所作成の『学習指導要領概要』をもとにして、中学校とのつながりを考えた教科・道徳・総合等を含めた3校合同の合本づくりにむけて、3校合同で9年間の教科や領域・課題のつながりを意見交流する場をつくり、旭中学校区版「9 年間の学びづくり」にむけて、中学校区全体でのスタートはされたが、今後年次的な成果を積み上げていく必要がある。

- (4) ミドル・アップ・ダウンマネジメントを活用した学校組織の活性化を図っている学校
- (5) 複雑に絡み合った課題に横断的かつ弾力的な対応をすることのできる学校

学校内の各組織がより主体的に活動していくためには、その活動を指導・評価していく役割が必要と考える。その役割は主任が担っているとされるが、実際には、組織として動くという点では十分ではなく、個人の力量に任されている状況がある。こうした組織の状況を改善し、学校としての力を高めていかなければ複雑に絡み合った課題に対して、適切な対応をすることは困難になる。主幹教諭の配置は、具体的には主任層の職務を見直すことにもつながり、チームで仕事をする場面の増にもつながった。主幹教諭が配置されることで、各組織がより活性化されたと言える。また、業務面において教頭の業務と重なる部分が多々あるように見えるが、校務分掌を見なおし、その学校にあったものにすることで、よりきめの細かい業務を行うことができる。

以上のことから、主幹教諭が配置されることで、より主体的な学校運営が可能になってくると考える。